

事務事業評価における総括

部 局 名	建設部	記入責任者	橋口 真澄
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>建設部は道路、公園、市営住宅等の定例定型的な維持管理業務が多いため、全体としては、例年どおり順調に推移しております。政策的事業については、37 事業のうち 19 事業で S 評価、6 事業で A 評価、3 事業で B 評価としていることから、成果としては概ね順調と考えております。</p> <p>しかしながら、外部的な影響が伴い成果としてこれからの事業の 4 事業は、C 評価としております。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>達成できなかったものとして、道路管理課「橋りょう等長寿命化修繕事業」につきましては、点検のみ実施したため、また、「茅ヶ崎駅南口駅前広場改修事業」は地元協議を重ねているため C 評価となり、道路建設課の「香川甘沼線道路改良事業」及び「高田萩園線道路改良事業」につきましては、用地及び補償交渉が難航したことにより年度内の達成ができなかったもので、今後も積極的なアプローチを行い成果が上がるものと考えております。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>インフラ事業の多くは、特定財源に対する依存度が高いため、国・県の財政状況によって、道路・公園整備や地籍調査など進捗が大きく抑制される要因となっております。</p> <p>また、道路舗装修繕事業などの維持管理業務については、市民ニーズが高いにも関わらず、財源の確保ができない状況が続くと、市民に安全安心な日常生活を提供するサービスの低下が懸念されます。</p> <p>いずれにしましても、建設部は道路等のインフラ整備を主体としているため、政策・施策目標の達成に向けては、財源の確保が大きな課題となっておりますが、単年度毎の事業が計画どおり成果が得られるよう業務内容に応じて、指定管理者制度や提案型民間活用制度の採用など、アイデアや工夫を重ねて、可能な限り業務の効率化を図ってまいります。</p>			